

# 未熟児の栄養素摂取の在り方に関する研究

(分担研究課題：乳幼児期の栄養・食生活の在り方に関する研究)

協力研究者：瀧本秀美<sup>1)</sup>

共同研究者：吉池信男<sup>2)</sup> 岡庭真理子<sup>3)</sup> 黒澤サト子<sup>3)</sup>

齊藤恭子<sup>4)</sup> 戸谷誠之<sup>1)</sup>

未熟児における栄養素摂取及び身体発育の実態を把握する事を目的に、本年度の調査を都内病院をフィールドに選定した。平成8年10月より、未熟児群と正常児群それぞれに対して調査を開始した。

現在までに、未熟児群30名と正常児群126名について調査を行っている。

見出し語：未熟児 栄養素摂取 身体発育

研究目的：近年、日本における未熟児の出生率は上昇しており、未熟児に対する栄養食生活指導の在り方に関する要望も高まっている。しかし、未熟児といっても、出生児体重や合併症の有無など、状況は多岐にわたっている。そこで我々は、未熟児の栄養食生活指導のための基礎資料の作成を目的に、未熟児および正常児における栄養素摂取及び身体発育の実態を把握するための調査研究を企画した。

調査対象および方法：対象となる未熟児は、1500~2300gの比較的大きめの児(LBWI群)で、先天奇形や呼吸器合併症などを有しないものである。SFD児・AFD児ともに、今回の調査対象に含めた。

この体重域の児は、本フィールドにおける未熟児の6~7割程度を占めている。

また、同時にcontrolとして2500g以上の正期産児(NBWI群)も調査対象に含める。調査フィールドとしては東京都内の某病院を選定した。本病院は、年間分娩数が約1200あり、NICUとして登録されてはいないが、1500g未満の未熟児の分娩もとり扱っている。年間の未熟児の出生数は40~50であり、その多くは院内出生児である。このため、出生後も比較的長期にわたってfollow upできるケースが多い。

<sup>1)</sup> 国立健康・栄養研究所 母子健康・栄養部

<sup>2)</sup> 国立健康・栄養研究所 成人健康・栄養部

<sup>3)</sup> 武蔵野赤十字病院 小児科

<sup>4)</sup> 武蔵野赤十字病院 母子保健相談室

調査方法は、LBWI群・NBWI群ともに、外来受診時あるいは乳児健診時に、母親に対する面接によって、乳児の栄養方法・食行動に関するアンケートと調査日の前日に乳児が摂取した乳汁および食品についての聞き取り調査を行った。両群ともに、出生時のデータはカルテの記載から収集した。

両群共通の調査項目として在胎期間、母体の妊娠合併症や分娩時合併症の有無、分娩様式、Apgar score、出生時の身長・体重・頭囲・胸囲などの身体計測値を選定した。

LBWI群については、同一児に対して縦断的に生後4・6・8・10・12・18カ月時点の身体計測および食生活についてのアンケート調査を行っている。

NBWI群については、各月齢において、身体計測とLBWI群と同一内容のアンケートを用いた断面調査を行った。

調査結果：現在、対照群であるNBWI群に関しては4カ月児18名、6カ月児25名、8カ月児12名、10カ月児26名、12カ月児26名、18カ月児12名の合計126名に関して調査を終了している。LBWI群については現在までに30名の該当者を登録済みである。

LBWI群・NBWI群ともに、現在調査進行中である。

考察：乳児の食事調査を行うにあたり、利用頻度の高い市販のベビーフードの栄養素成分を網羅したデータベースの必要性を感じた。また、乳児の1回の摂取量は少量であるため、母親の記載した摂取目安量から実際の量を推定するのは困難であった。

文献:Nutrition Committee of the Canadian Paediatric Society:Nutrient needs and feeding of premature infants. Can Med Assoc J 1995;152:1765-1785

## Abstracts

### Adequate nutrient requirements for low birth weight born infants during weaning

Hidemi Takimoto<sup>1)</sup>, Nobuo Yoshiike<sup>2)</sup>, Mariko Okaniwa<sup>3)</sup>, Satoko Kurosawa<sup>3)</sup>, Yasuko Saito<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>Division of Maternal and Child Health Science, National Institute of Health and Nutrition

<sup>2)</sup>Division of Adult Health Science, National Institute of Health and Nutrition

<sup>3)</sup>Department of Pediatrics, Musashino Redcross Hospital

<sup>4)</sup> Maternal and Child Health Counselling Room, Musashino Redcross Hospital

There are only few studies on the growth of low birth weight born infants and their nutritional status. This study was designed to find the adequate nutrient requirements needed for low birth weight born infants to achieve appropriate growth and development, mainly during and after the weaning period. The infants included in our study were in a birth weight range of 1500 to 2300 grms, with no major health problems. We recruited age matched normal birth weight born infants as controls. The research questionnaire consisted on the infant's eating habits and a 24hour dietary record. 30 cases and 126 controls has been enrolled.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



未熟児における栄養素摂取及び身体発育の実態を把握する事を目的に、本年度の調査を都内病院をフィールドに選定した。平成 8 年 10 月より、未熟児群と正常児群それぞれに対して調査を開始した。

現在までに、未熟児群 30 名と正常児群 126 名について調査を行っている。